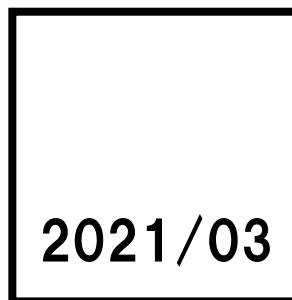




神奈川県立川崎図書館 が所蔵する  
全国有数の〈社史コレクション〉を  
さらに活用していただくため、  
社史の使い方や、社史の楽しさ、  
社史情報などをお届けしていきます。



間もなく1周年を迎える新人司書は、「今年〇〇周年を迎える企業」をテーマとした展示の準備中です。ふと、周年事業の社史への掲載が気になりました。そこで今号では、今年節目を迎える企業の社史で、過去の周年事業について調べてみた結果をまとめました。

周年企業については、帝国データバンクの「2021年「周年記念企業」調査」を参考にしました。

オフィス機器卸などの大塚商会は、六十年周年を迎えます。『大塚商会五十年史』（2011年刊）は、「創業から10周年まで」のように五十年間の歴史を、「何周年」を

基準にまとめた社史です。そのためか、周年事業についての記述も豊富です。二年連続減益という厳しい状況下で迎えた十五年（1976年）では、当時の社長が式典で「賞与について触れ、会社として精一杯の支給を行ったが、社員の日々の努力に報いることができなかつたと頭を下げた」という生々しい記述があります。

一方で、パソコン、ワープロへの参入の正式表明も兼ねた二十周年（1981年）の式典については「15周年の時の沈んだ雰囲気とは様変わり、押せ押せムードに溢れた式典となった」との記述があります。その時々々の経営状況を反映した記念式典の温度感が伝わります。

水産缶詰製造などのはごろもフーズは、九十周年を迎えます。六十年史から十年ごとに刊行されている社史では、周年事業を一つの記事として大きく扱う傾向があります。『はごろもフーズの八十年』（2011年刊）でも、「TOPICS 80周年記念事業」として記念事業の数々が記載されています。具体的には、東京デイズニーシー・ホテルミラコスタでの記念式典や、静岡県立美術館への「富士三保松原図屏風」寄贈、全国の小学校・公共図書館へ提供する、『かんづめのひみつ』（株）学研パブリッシング）の刊行などです。

中でも記念式典については、東京デイズニーシーという場所柄、「来場者に夢を与えるため」の細かな規則による制約で

（裏面につづく）

# 社史で読む周年事業

(表面からつづく)

運営側が苦勞したことなどが書かれている点が印象的です。

TBSホールディングスは、株式会社ラジオ東京として創業して以来七十周年を迎えます。

『TBS50年史』(2002年刊)によると、創立十周年では、それまで「日比谷の朝日生命ビルに部屋を借りていた本社機能、有楽町の毎日新館などにあったラジオ局、そして赤坂のテレビと、事務所が3カ所に分散していた」ことを受けて、1961年、赤坂に総合局舎を建設。三十周年では「広大な大道具倉庫、大食堂や仮眠設備も整った」緑山スタジアムを建設と、周年の節目に建物を増設する傾向が見て取れます。

記念式典は、完成したばかりの建物で行われ、招待客への案内も兼ねていました。1981年の三十周年記念式典について、「見学コースは、オープンスタジアムなど建物の概要を主体とするコースと、出演者控え室や調整室など機能を中心にみるコー

スの2つに分けていたが、いずれも係員は息をつけぬほどの盛況だった」とあります。

時間情報システム事業などを手掛けるアマノ株式会社は、九十周年を迎えます。八十年史『100年企業を指して』(2012年刊)には、「80周年記念事業」として2011年に行われた式典、記念誌の編纂、記念品の配布、祝賀会開催、新ユニフォームの導入、記念イベントを開催した旨などが書かれています。

記念品については、「東北復興支援として、東北地方の名産品や東北地方で生産された商品の中から、社員皆様の日常生活の中で使えるものを選定し配付」したとあり、実際に配られた「会津漆塗り和皿」「会津漆塗りフオトスタンド」「南部鉄器鉄板」「津軽びいどろグラスセット」の写真が掲載されています。

広告代理店の電通は、百二十周年を迎えます。『電通100年史』(2001年刊)には資料編があり、「周年記

念事業」として過去の様々な行事の概要がまとめられています。中でも気になったのは、創立四十周年(1940年※)についての、「勤続5年以上の社員に記念品の兜を配った」という一文。本編によれば、全国新聞社四十年勤続者と勤続五年以上の社員に対し、「光永星郎社長から記念品として「阿斯訶備」(阿斯訶備は古事記に出てくる葦の若葉のこと。形がペン先に似ていて、それを正面に据え真ん中に社章を付けたもの)の兜が贈られ」たそうです。実際に配られた兜の写真も掲載されています。

※25周年から60周年までは数え年方式を採用したとあります。

業種は違えど、様々な困難の中で今年節目を迎える企業はどのように祝い、それらは未来の社史にどのように書かれるのでしょうか。

そして、未来の社楽ではどのようにまとめられているのかと、思いをはせる新人司書なりました。

(企画情報課 堀田)

●問合せ先 神奈川県立川崎図書館 企画情報課

213-0012 川崎市高津区坂戸 3-2-1 かながわサイエンスパーク 西棟 2F

電話：044-299-7826 FAX：044-322-8878

<https://www.klnet.pref.kanagawa.jp/kawasaki/index.html>